

2011年度 通常総会挨拶

新役員を中心に会員一丸となって 「大震災」という難局を乗り越っていききたい

車体工業会の会長を務めております高木でございます。

先ほど全員で黙祷をささげましたが、改めまして、大震災で被災された方々にお悔やみとお見舞いを申し上げます。

サプライチェーンの分断によるシャシや部品の納入遅れへの対応、また電力の使用削減への対応等、会員の皆様方におかれまして、大変お忙しい毎日をお過ごしのことと存じます。

このような中、本日は通常総会にあたり、かくも多数の皆様にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

先ほど事務局に聞きましたところ、ここ4年間毎年参加者が増えており、今年は200名以上の参加となっているとのことで大変感謝しております。また後ほど、経済産業省及び国土交通省の方にも参加いただき、ご挨拶をいただく予定となっております。

さて、昨年度1年間を振り返りますと、大変変化の激しかった1年であったと思います。

普通貨物車の販売は10万3千台で前年比15%、そのうち中大型車は5万1千台、24%増加と4年振りに増加に転じました。年度前半は買換え補助金やポスト新長期規制に伴う特需で好調に推移しましたが、秋以降はその反動で前年割れが続きました。年明けから再度回復に向かいましたが、年度末の大震災で事態は一変してしまい、まだ先行き不透明な状態が続いています。

当会会員の生産台数を見ますと、全体では214万台で前年比3%減少でしたが、委託生産車を除く当会特有の非量産車は、3月の落込みが少なかったためもあり10万6千台と前年比6%増加となりました。

当会の会員状況をみますと、昨年度は正会員で5社入会、2社退会で167社に、準会員含む全体では258社となりました。厳しい経営環境の中ですが、正会員はこの2年間で7社増加し、入会理由の多くは「業界情報を入手したい」であり、この期待に応えていく責任の重さを強く感じております。

このような状況のもと、当会は(1)会員支援活動の充実 (2)安全対応の推進 (3)環境対応の推進 (4)当会の活性化の4項目を重点項目として取り組んでまいりましたので、それらについて簡単に振り返ってみます。

先ず「会員支援活動」の実績をみますと、技術面では従来から実施している新法規対応への技術的支援に加え、昨年度は新たに改造届け出要領を説明した「改造届け出解説書」を完成させることが出来ました。

また中小企業経営支援の面では、多岐に渡る公的支援策情報を幅広く収集し、会員にタイムリーに展開するとともに、その講演会、説明会も実施いたしました。

次の「安全対応活動」の面では、社会的に大きな関心事にもなったトレーラの横転事故の対策と

して、ロールオーバーコントロール(ROC)という横転抑制装置を共同開発し、効果確認できましたので普及活動を始めました。その他当車体工業会規格であるJABIA規格の4件の制定や、パンパの共同開発などの7件の調査研究業務を終了させることが出来ました。

三点目の「環境対応」の面では、CO₂、VOC、産業廃棄物の削減につきましては、会員の皆様の積極的な削減努力のお陰で、ほぼ今年度目標を達成させることができました。

更には、新たに環境基準適合ラベルに加え、より高度な要件を加味した新ラベルとしてゴールドラベルを設定することが出来ました。

最後の活性化では、計画どおりに一般社団法人への移行が出来ました。

当会ではこれを、単なる法規対応としてだけではなく、当会活性化の手段として捉え、定款、規程類、基準書類の見直しも終了しました。

以上のように昨年度は、「会員支援業務」を最優先に、多くの成果を上げることが出来た年であったと判断しております。

さてここで、直近の課題としてこの場をお借りしてお願いを一点申し上げます。

皆様、十分ご承知のことと存じますが、今年は電力需要が大変緊迫しております。経済産業省や日本経団連からの削減要請もありますが、我々としても、円滑な生産活動維持のため、自主的にも削減を進める必要があります。会員の皆様におかれましては、是非とも最大電力の15%削減をお

願い申し上げます。

なお、この削減方策の一環として、日本自動車工業会としては休日を木曜日、金曜日とする稼働日変更を決定しています。当会会員の電力使用の9割以上は委託生産会社で占めており、これら委託生産会社の多くは稼働日変更する方向で検討中でありますので、他の会員各社におかれましては、出来る限りのご協力をお願いします。

しかし当会としては全体を統一することまでは考えておりませんので、会員各社におかれましては、電力削減やお取引先の上流工程、下流工程、また官公庁などとの関係を考慮し、各社様で判断をお願い申し上げます。重要なのは最大電力の削減でありますので、この面で、どうぞよろしくお願ひします。

本年は当会の役員改選の年になっており、私は今回、会長職を辞することになりました。

この2年間の任期中はジェットコースターのような激しい環境変化でありましたが、多少なりとも成果をあげることができたと自負しております。これもひとえに会員の皆様のご支援、ご協力の賜物と深く感謝申し上げます次第であります。

しかしながら道半ばのことも多数ございまして、最大の課題はこの大震災からの復旧であります。車体業界にふたたび繁栄をもたらすために、新しい役員を中心に会員の皆様が一丸となってこの難局を乗り越っていただきますようお願い申し上げます。本日は、誠にありがとうございます。



会長 高木 茂
(日産車体(株)・相談役)